

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2774501171
法人名	社会福祉法人 常茂恵会
事業所名	グループホーム ラポート
訪問調査日	平成 20 年 12 月 12 日
評価確定日	平成 21 年 1 月 19 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2008年12月12日

【評価実施概要】

事業所番号	2774501171
法人名	社会福祉法人 常茂恵会
事業所名	グループホーム ラポート
所在地	大阪府泉佐野市長滝3735-1 (電話) 072-490-3100

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年12月12日	評価確定日	平成21年1月19日

【情報提供票より】(20年11月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年10月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	16人	常勤	8人, 非常勤 8人, 常勤換算 5.0人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	2階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,750円	その他の経費(月額)	26,250円
敷金	有()円 ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		

(4) 利用者の概要(11月20日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.8歳	最低	79歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	樽谷医院 若松歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

泉佐野市のキャベツ畑の広がる自然豊かな地域にあり、近隣には人家が少ない。ヘルパーステーション、デイサービス、ケアステーションを設立したが、独居老人や高齢者の施設の必要性を痛感し、隣接地にグループホーム、有料老人ホームを開設した。ホームは明るい家庭的な雰囲気の中、個々を大切に支援されていて、落ち着いた明るい利用者の顔が印象的である。職員の異動も少なく、併設のデイサービス、ヘルパー支援などを経由して入所されるので、馴染みの関係で支援が行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での提案は改善に取り組んだが、15、16の項目については、記録の明記と保存が求められていたが、現在検討中である。また、16の項目の介護計画の見直しは早急に行なえるように望まれる。27の項目の災害対策は、地域の協力をお願いしているが、実現できていない。備蓄は準備したが、夜間想定 ① 訓練は行っていない。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全体で話し合い取り組んだ。外部評価の結果は、ミーティング、運営推進会議でも報告検討し、サービスの向上に活かせるよう取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヵ月に一回開かれ、地域包括支援センター職員、民生委員、コミュニティソーシャルワーカー、家族、職員が出席している。事業所や利用者の現状、外部評価の報告、地域との関わり、緊急対応についてなどが話し合わせ、サービスの改善と向上につなげている。家族の参加が少ないので、更なる呼びかけをし、出席者が増え、たくさんの協力が得られるよう期待したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族には、毎月ホームでの暮らしぶりや健康状態を手書きで知らせしている。また家族の来所時には直接話し、家族と職員の信頼関係が出来ている。家族の意見、要望にはすばやく対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣地域の文化祭、お花見、高齢者の集りに出かけたり、保育所の運動会に招待されたりしている。隣の八百屋さんでのお買物や挨拶を交わすなどの交流があり、出来る限り、地域の一員として生活出来るように努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人権と福祉」をテーマとして、地域福祉の一翼を担い、「全ての人の人権を守る」そのことを理念として邁進したい、と職員全員で考えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はよく目に付く入口に掲示し、つねに理念に沿ったサービスの提供に取り組んでいる。また、職員のホーム目標も掲げ、よりよい支援に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣地域の文化祭やお花見、高齢者の集りに参加している。保育所の運動会に招待されている。また、隣接の八百屋さんでのお買物、あいさつを交わすなど、出来る限り地域の中で交流できるよう努めている。町内会への加入は、いま交渉している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービスの評価の理解に努め、運営に生かそうと関係者全員で取り組んでいる。自己評価は、評価の意義とねらいを、職員全員で話し合い、意見を出し合い改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月に一度開催し、民生委員、地域包括支援センター職員、ソーシャルワーカー、職員、家族が出席している。外部評価の報告、地域との関わりなど話し合われている。会議での意見はミーティングで報告し、サービスの向上に活かしている。家族の参加が少数なのが課題で、更なる呼びかけに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター、介護保険課に出向き、相談に乗ってもらったり、情報交換に努め、サービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の暮らしぶり、健康状態、行事など手書きにし、行事の写真も添え、請求書と一緒に送っている。訪問の少ない家族にも安心感を与えている。家族の訪問時には報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を置いたり、訪問時に聞いたりしている。意見や苦情は、ミーティング、運営推進会議で話し合われ、改善に努め、結果は家族にも報告されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム開設3年目を迎えているが、離職者はほとんど無く、馴染みの関係が保たれている。異動がある場合には、利用者へのダメージを考慮し、引継ぎ期間を設けている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所としての内部研修、泉佐野市、大阪市での外部研修に参加する機会を設けている。研修後はミーティングで報告し、他の職員に伝達し、全員で研修を生かす工夫がなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	泉佐野市でのネットワークが1月には出来る予定で、今進めている。研修会などで知り合った他のグループホームと管理者が交流し、情報・意見交換をし、更なるサービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同一事業体のデイサービス、ヘルパー支援を利用しての入居のケースが多いが、職員の家庭訪問、体験入所も視野にいれ、段階的に支援できるよう配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人のこれまでの生活歴や暮らしぶりを本人、家族から聞き取り、今までの暮らしぶりを大切にし、ホームでの生活に馴染めるよう支援されている。職員は自分の家族のように接し、日々の生活の中で喜怒哀楽を共にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、一人ひとりの暮らし方の希望、馴染みの場所など、可能な限り本人の意向に添った生活を支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向をよく聞き、必要な関係者とも話し合い介護計画書を作成していたが、前回の調査から指摘を受け、新しい計画書を考案中である。ケース記録やサービス計画書もしっかり記入されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化が起こったときには、本人・家族・関係者と話し合い、介護計画の見直しをしているが、明記されていない。	○	3か月に一度の介護計画の見直しをし、介護計画書に明記する書式を早急に整え、改善に努力することを期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の馴染みの人がいるデイサービスに出かける、今までのかかりつけ医への受診のための同伴・送迎をする、近隣の老人の集りに送迎するなど、出来る限り柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望で、今までのかかりつけ医での受診に対応している。協力医療機関からの往診は月2回、利用者ごとの受診内容は職員も把握している。必要時には医師より家族に説明し、安心した支援を行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、何度も本人、家族、主治医、職員で話し合い、今後の方針を決めている。看取りの経験もあり、医療関係者でできること、ホームでできることを見直し、連携しながら対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	さりげなく食事の介助をしたり、言葉がけに気をつけるなど、職員の対応には、ミーティングで徹底して話し合っている。個人の記録は、鍵のかかる棚に保管され、取扱いに注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は決めているが、起床・朝食時間など、利用者のリズムに合わせている。散歩、買物なども本人の希望にそって支援し、個人の気持ちを尊重している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は管理栄養士が立てているが、利用者の要望に合わせて献立を変更することもある。利用者は、テーブルを拭いたり、急須のお茶を注いだりし、家庭的な雰囲気の中、職員と共に和やかに食事が進められている。時には出前のお寿司、バーベキュー、前庭でのお茶を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隔日に入浴し、時間も個人の希望に合わせている。本人の希望や失禁時などは、いつでも対応している。浴室には大きな窓があり、ゆったり楽しめる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の暮らしの中で、一人ひとりに合った楽しみごと(塗り絵。新聞を読む。歌を歌うなど)を、生活暦や会話の中から見出し、支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの希望や状況に応じて、事業所の周辺や本人の馴染みの場所へ出かけたりしている。車椅子の利用者が増え、外出時には、ボランティアの手助けを検討している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関は、夜間以外は開錠して閉塞感を取り除いている。一階の有料老人ホームの玄関は、交通量の多い道路に面しているため、家族の要望もあり施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年一回消防署の指導による災害訓練を行なっている。地域の協力が得られず、夜間の訓練が出来ていない。運営推進会議で検討し改善に努める予定である。備蓄として飲料水、おむつ等を揃えている。	○	夜間を想定した訓練、地域の協力を得られるよう働きかけるなど話し合い、早急な実現を期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士作成の献立で栄養バランスを維持している。食事量、水分量も個別に記録し、尿量とのバランスが保てるよう配慮し、職員全員が情報を共有できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂・居間は吹き抜けからの日光が入り明るく、和室もあり、寛げるようになっている。食堂のテーブル・イスは、それぞれの背丈に合わせている。廊下、居間の壁には季節感を採り入れた飾り物が用意されて、居心地のよい空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた机・イス・箆笥・テレビ・仏壇などが持ち込まれている。壁には家族の写真や、好きな絵・掛け軸など飾られ、居心地よく過ごせる配慮がなされている。		